《第１５４号》　2010年５月創刊　　9月3日発行　2023年９月号

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

「敬老の日」を迎えるにあたり

わたしはあなたたちの老いる日まで
白髪になるまで背負って行こう
（イザヤ書第４６章４節）

今年は９月１８日（月）に敬老の日を迎えます。教会によっては、ある年齢に達した方々を「敬老対象者」として、その方々の祝福をお祈りする「敬老感謝礼拝」といった礼拝また祝会を行なう教会もあります。

但し、何歳を迎えたら「敬老対象者」とするかは教会によって異なりますし、また同じ教会でも段々その年齢が引き上げられていくといったこともあるようです。もともとは７０歳であったものが７５歳に、やがては喜寿にという案も出てきたりします。

そうした教会のある信徒の方から、敬老対象者に自分が入れそうになったら、その年齢が引き上げられ、まるで「敬老対象者」が逃げ水のように遠ざかって行くと笑いながら不満を漏らしていました。しかし不満といっても笑いながら言うところに、逆に言えばまだ若いということでもあって悪い気はしないのかも知れません。

わたし自身、もし７０歳が敬老対象者なら、今年その年齢に達するわけで、正直なところ、若干抵抗を感じないわけではありません。また自分自身がまだまだ未熟であり「敬老」と言われるのはおこがましくも感じています。

「わたしはあなたたちの老いる日まで　白髪になるまで背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す（イザヤ４６：４）」

この聖句は、神がイスラエル民族をその度々の罪にも係わらず、背負い続け、最後には必ず救われるというものですが、これは一人一人の人生にも向けられた言葉でもあります。それは神ご自身が私たち一人一人を造られ、日々命を与えて下さっており、神は私たちを造った以上、私たちの側の忘却や罪にも係わらず、尚も最後までしっかりと責任を負って下さり、そして救い出してくださるというものです。

まず私たちキリスト者が思い起こすべきなのは、私たちは自分の力で生きているのではなく、神によって日々生かされているということです。そして年齢を重ねるに連れ、その思いは強くなるのではと思います。

老いるということは、この世的には衰えまた悲哀としてとらえられがちです。生産性という視点から見る時、自分が役に立たない無用の存在のように思い、心が塞ぐことがあるかも知れません。

しかし信仰の視点に立つ時、その人の人生また存在そのものが神の愛と神の栄光を現しているということです。それ故に「白髪は輝く冠、神に従う道に見いだされる（箴言１６：３１）」のです。

敬老の日を迎えるにあたり、高齢者の方々への今までの働きへの感謝と、神の祝福と恵みをお祈りしたいと思います。